

イノシシ捕獲に係る取組状況について

1 田原市及び豊橋市における野生イノシシの捕獲頭数について（表 1、図 1）

2023年度 9 月末時点の野生イノシシの捕獲頭数は、豊橋市85頭（前年度同時期：78頭）、田原市300頭（同：135頭）となっている。

豊橋市については前年度と同程度だが、田原市については前年度と比べ大きく増加しており、9 月末時点で2018、2020～2022年度の年間捕獲頭数を上回っている。

また、県が田原市内で実施している指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲頭数は、13頭（同：42頭）となっている。

地区ごとの捕獲頭数について、2022年度と比較して豊橋市は全域でほぼ横ばい、田原市の大山山塊で増加している。

表 1 野生イノシシの捕獲頭数の経年推移（頭）

市／年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023*	
豊橋市	297	268	165	121	210	85	
内訳	有害	251	220	160	111	198	85
	狩猟	46	48	5	10	12	0
田原市	277	497	270	125	212	300	
内訳	有害	271	492	204	87	160	287
	指定管理	未実施	未実施	66	35	47	13
	狩猟	6	5	0	3	5	0
計	574	765	435	246	422	385	

※2023年度は 9 月末時点の速報値

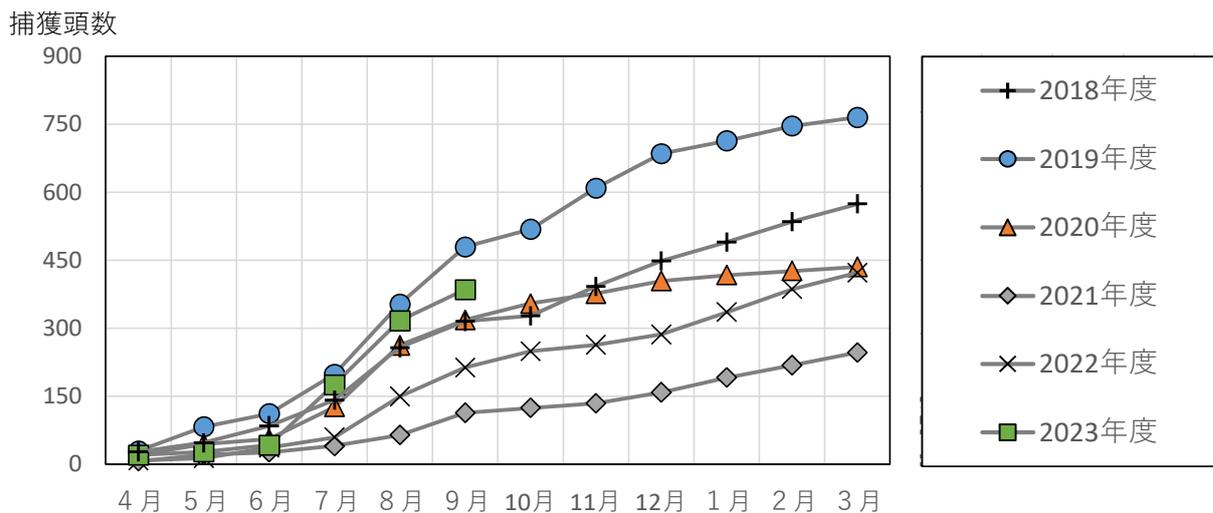


図 1 野生イノシシ捕獲頭数の経年推移（捕獲数の月別積上推移）

2 30kg以上のメスの捕獲効率について（資料1-2）

豊橋市及び田原市において2019～2023年度に捕獲された野生イノシシのうち、妊娠可能と考えられる30kg以上のメスの毎月の捕獲頭数について、わな種別の捕獲頭数と全体の捕獲数に占める割合をとりまとめた。

年度によってばらつきがあるが、おおよそ毎年度1～3月にくくりわな、箱わななどにもメスの捕獲頭数及び全体に占める割合が上昇していることが確認された。メスの捕獲割合は1～6月の間で他の月より相対的に上昇しており、この期間に高い捕獲圧をかけることで、全体の生息頭数低減に寄与すると考えられる。

3 農作物被害額について（図2）

イノシシによる農業被害額（速報値）について、豊橋市については概ね横ばい傾向にある。田原市については年々減少しており、2021年度は被害の報告がなかったが、2022年度は50千円の被害報告があった。

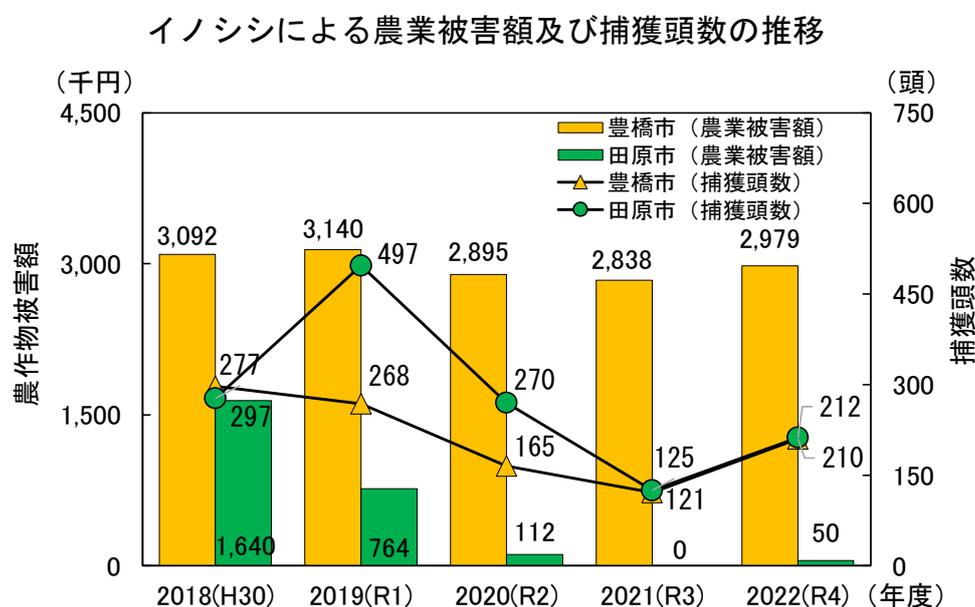


図2 イノシシによる農業被害額及び捕獲頭数の推移

4 その他（資料1-3）

県内の野生イノシシの豚熱陽性個体の確認状況について、2023年度は9月末時点で8件と、2022年度の9件（前年度同時期、通年では28件）と比べ、やや減少している。

県内の地域ごとの捕獲頭数について、県全体としては2022年度と比べ減少しており、豚熱の陽性個体が確認されている一部の市町村は特に減少している。東三河地域については、2022年度と比べ捕獲頭数が増加傾向にあり、特に田原市において顕著である。